

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491400016		
法人名	社会福祉法人 矢本愛育会		
事業所名	認知症高齢者グループホームあさぎり		
所在地	宮城県東松島市赤井字川前四311-1		
自己評価作成日	平成23年 1月28日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域との関わりを大切にして、ご利用者が地域の資源を活用し、喜びを持って暮らしていけるように力を注いでいる。地域の老人会主催のお花見や菊見会、新年会等に参加して顔見知りになってきたことで、地域の方々から声を掛けられるようになり、ホーム全体で感謝している。
 ・ご家族との絆を大切にして、来訪しやすい雰囲気作りを心掛けている。家族会も5年目を迎え、ホームの窓拭きや清掃等の奉仕活動への参加、季節の行事等への参加も大変定着してきている。
 ・ご利用者のケアは「自立支援」を念頭に置き、ご利用者各々が持てる力を役割り活動に発揮してもらえるように取り組んでいる。食後の後片付け等はご利用者で協力し合い、楽しみながら仕事している姿が見られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは認知高齢者と知的に障害を持つ方が共に共同生活を送っている。家庭的な環境(作業所に行く時の玄関での送迎など)で世代間交流が行われ、一人ひとりが生活の中で潜在能力を役割りに生かし、職員と共に活動計画を作り笑顔のある生活をしている。あさぎりの職員心得に「介護・支援に欠かせないものは、よりよい環境づくりです。最もたいせつなものは、人的環境です。自分たち自らがよき環境の一部となれるよう心を整えてください」があり、地域のネットワーク(老人会、小学校、保育園)や家族会、ボランティアさんの受け入れなど、ホームを支援する人的環境も整えられ、ホームの運営に生かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(事業所名 あさぎり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフで話し合い、事業所独自で作り上げた理念がある。随時ミーティング等で理念を確認し合っている。	理念「喜びと笑顔のためにできること～だれもが地域で共に生きる～」を入居者が過ごしやすいようにどこを見てケアするのかを考え、日ごろの声掛けなどに生かしている。理念は日常的に振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、地域のゴミ集積所の当番を行ったり、脳活性化教室、学校行事等に参加し、日常的に地域との交流の場がある。	近隣の小学校から事業所訪問で子供たちが来て交流をしている。また学習発表会、運動会、収穫祭など招待され参加している。脳活性化教室(地区高齢者交流会)に参加し、馴染みの関係もつくっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流の場等で、管理者による認知症についての講話等を行ったりする機会を設けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、事業所から生活の報告の他、地域の情報を得たり、互いに意見交換が行われている。	行政職員、地区長、地区民生委員、入居者家族が毎回参加して、情報交換や質疑応答、助言などがありサービスに生かされている。事業所からの報告は写真入りで日常の様子が分かるように工夫されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず市の職員に参加してもらい、情報交換を行っている。また、市を中心とした地域密着型サービス連絡協議会があり、情報の共有や介護の学習会等が開催されている。	市の地域密着型サービス連絡協議会では「ケースの対処」や「介護計画の基礎的な振り返り」など年1回の研修会がある。市職員は施設を見ながら面談することにより、問題に気づく事もあり仕事に活かせると話していた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が自由に出入りできる環境であり、万が一利用者が外へ出ても近隣の方々と連絡が取れるように努めている。禁止対象となる行為については、研修報告等を通して、職員間で確認し合っている。	近隣の方やお店の方に施設の行事案内を持って行く時は入居者の方と一緒にいき、顔見知りになり、見守り、声掛けや連絡してもらえるようにしている。外部・内部研修を通して身体拘束について理解を深め、ケアに当たっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会等への参加や会議等で関連法について学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者があり、関係する方々と話し合う機会も設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際には、利用者・ご家族に十分な説明を行い、納得の上での同意を得て契約締結に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や定期的開催する家族参加行事等を通して、ご意見や要望を伺う機会を設けている。要望等はミーティングを行い、ホームの運営に積極的に反映するように心掛けている。	家族会の活動が年5回(お花見・清掃奉仕・敬老会・クリスマス会・総会)あり、参加率が高い。また、家族の面会も多く、家族と職員、家族同士のコミュニケーションが取れており、話しやすい環境である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送り等で、職員から考え等を聞く機会を設け、改善が必要な場合は十分な話し合いを行える環境を作っている。	代表者が参加する会議、職員間のミーティング、個人面談を通して、職員のケア等に対する思いを聞く場を設けている、研修への参加なども積極的に支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って業務に取り組めるように助言を行ったり、職場環境を整備する事に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は研修計画を作り、経験や能力に合わせた研修への参加に努め、各々のスキルアップに役立っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市に働きかけ地域密着型サービス連絡協議会を運営し、グループホームや認知症対応型デイ等と意見交換を行う機会があり、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査を実施し、本人との関係作りに努めながら、今必要としているサービスが何なのかを見極め、本人が安心して入居できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込み時にホームの様子等を伝え、家族とホームの信頼関係を築くよう努め、遠慮なく不安や要望を語って頂ける雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの際には、本人の状況の聞き取りを行ない、必要に応じて他のサービスや事業所を紹介するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの能力に応じて役割活動を考えながら暮らし頂くように努め、このホームで共に暮らす仲間という意識を利用者とスタッフが築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも協力を頂き通院の支援を行ってもらったり、本人が今抱えている悩みや今後の対応等を家族・スタッフが共に考えるような関係作りを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関係が継続されるように家族会を設置して活動を支援している。また、地域の馴染みの商店への買い物に行く方もおられる。	近隣に住む保育園を退職された先生のボランティアが週に1回、フラワーアレンジメントやレクリエーション(折り紙、歌など)で入居者と交流している。近くの理・美容院が馴染みになり、訪問もしてくれる。家族会活動も活発である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人の個性や性格を把握して、スタッフが利用者同士の関係を保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設替えになっても、スタッフが面会に行ったりしながら、励ましの声掛け等を行うように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から暮らしの希望を伺い、その希望に沿える様な支援を心掛けている。	意思確認の困難な方はケアに係わり合いながら、表情やしぐさ等で思いを把握し、家族も情報を伝え話し合い、支援に心掛けている。戸外のテラスで飲む紅茶を楽しみにしている方がおり、世代間交流が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族への聞き取り調査等において本人と取り巻くさまざまな事柄を把握するよう努め、サービス提供に役立てるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を生活記録に書き留め、スタッフで情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにケアカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。また、必要に応じて家族や本人の意見を繁栄出来るように取り組んでいる。	日々のサービス実施記録表を十分に活用し、ミーティングを行い、毎月ケアプランの見直しをしている。3ヶ月毎の介護計画の見直しは家族に説明の上、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス実施状況様式に日々の実践や本人の生活の様子を記載し、スタッフ間で情報を共有し、実践の振り返りに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の支援の希望に対して、柔軟に対応できる体制作りと実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の区長や民生委員に働きかけ老人クラブへの参加を支援したり、地域の方々と意見交換や交流する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、通院は本人及び家族の希望に応じている。家族対応の場合は、医療機関に情報提供を支援するようにしている。また、本人の状況によっては職員が代行している。	本人、家族が希望するかかりつけ医を受診できるように、家族と協力しながら、支援している。通院記録は家族と情報を共有している。歯科は必要に応じて訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バックアップ施設の特養ホームの看護師に気軽に相談できる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活の状況を詳細に伝えている。見舞い等も頻繁に行うように心掛け、入院による心理的なダメージを少なくするように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意志確認書を作成し、本人及び家族と話し合いを行い、事業所で出来ることの対応について説明し、理解を得ている。	重度化の指針を作成し、意思確認書を貰っている。終末期に対する家族の思いを大切に、状況の変化に応じて、家族と話し合いを持ち、事務所で対応できるケアについて確認しながら、支援して行く事を説明し理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、利用者の状況一覧表を作成し、初期対応での戸惑いを無くすように対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練に近所の方々の参加を促したり、運営推進会議を通して地域の自主防災組織との協力体制作りに取り組んでいる。	夜間想定訓練を年2回実施している。(1回は消防署立会い) 地域の自主防災組織と安否確認の協力体制もある。スプリンクラー、自動通報装置、火災報知機等年2回定期点検を行っている。	昨年地域住民の参加が雨の為、実施できなかったのが今年度は是非実施して頂きたい。また、防災頭巾やヘルメット、食料の備蓄についても検討をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格と尊厳を損ねないよう日頃からミーティング等で確認し合いながら対応している。	本人、家族と話し合い、その方の馴染んだ呼び方をしている。人前で恥ずかしい思いをしないように、さりげなく誘導するように心がけている。お便りやパンフレットに写真を掲載するときは了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に委ねたりしながら、希望を聞いたり、さりげない声掛けの中に自己決定を促せるような働き掛けを行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な流れはあるが、それぞれの生活ペースを守るような支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意向を尊重しながら、自己選択を促す声掛けや対応をするように取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片付け等を一緒に行ったり、食事も同じテーブルで摂るようにして、会話等も弾みながら食事している。	準備、後片付けは入居者が自分の役割とばかりに生き生きと仕事をしている。食事は家庭的なメニューで薄味の工夫がされていた。誕生日にはその方の希望を取り入れたメニューで対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バックアップ施設の栄養士から献立を提供してもらい、栄養バランス等を考慮している。また、食事や水分の摂取量を記録して不足が生じるような場合は、適宜補食等行うように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	希望者には訪問歯科サービスの提供利用している。スタッフは口腔ケアの大切さを理解し、本人と一緒にその能力に応じたケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄チェック表を活用して、トイレ誘導に努めながら、自立に向けた支援を心掛けている。リハビリパンツを下着に替える等、快適に過ごせるように支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人の快適性と排泄支援用品の節約に心がけている。夜間も時間対応、コール対応に即応し、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による不穏等、その影響を理解して、整腸作用のある乳製品の提供や食物繊維の豊富な食材を取り入れ、便秘予防に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間入浴の実施や回数等を本人と相談しながら、個々の希望に合わせた入浴が出来るように努めている。	夜間入浴に対してはスタッフの配置を考慮しながら実施している。これまでの生活習慣を継続できて、良く就寝できている。入浴を拒む人には、時間をおいたり、別の職員が声掛けする等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出等で疲労感がある際は休息を促したり、寝付けない方には添い寝をする等、安心して休めるように配慮している。就寝前の入浴を支援し、安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状は個別にファイルして随時職員が確認できるようにしている。服薬はスタッフが管理し、本人に手渡したり口へ運んだりして誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴を把握し、能力を活かした役割りの提供等、楽しみを持って生活を送れるような支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添って、近所の馴染みの店へ出かけたり、本屋やスーパー等への外出を支援している。	本人の希望で医療機関受診の後、外食をしたり、買い物支援をしている。あまり出たがない人にもウッドデッキでの外気浴をすすめている。毎年行われる特養での夏祭りにはホームの出し物を準備、練習をして、全員参加で出かけ楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて個人で管理したり、スタッフが管理している。外出の際は本人に支払いをしてもらう等、金銭を使うことの大切さを理解した上で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望等を考慮して対応したり、外部から電話があった場合は取り次ぎ、やりとりの支援を行えるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	神棚の設置や盆の供養等、季節感のある空間作りに努めている。カレンダーや時計などの日常的に視界に入るものは見やすい高さに調節して飾っている。	食堂のカレンダーは手作りで見やすい高さ、大きさがあり、入居者が日めくりで対応している。またボランティアから寄付された雛壇があり、フラワーアレンジメントと共に季節感を演出している。加湿器による加湿と時間による換気を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や廊下にソファを配置して、気のあった者同士が思いを語れる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は本人の馴染みの物を持込んでもらう等、家族へ協力をお願いしている。	居室は希望で畳を敷くこともできる。入り口は自分ののれんで個性を出し、職員と一緒に作った表札がある。家族会の清掃奉仕では窓拭き等、行き届かなかった隅々まで念入りにきれいにしてもらった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の状態に合わせた福祉機器の導入や廊下の手摺りの配置などに考慮し、安全に自立した生活が送れるように配慮している。		